

ふるさと見て歩き

第2回

百観音自然公園 (那賀)



◀ 観音洞窟入口のようす。非日常的な空間へようこそ。

最奥部は更に狭くなりませんが、体がかがめながら奥まで進むとありがたいう大日如来に会うことができます。ほかに山内各所に観音像があり、総数で百体であるといわれています。春秋二回の祭日には、かつては近郷近在の人々が集い、賑わいを呈したということです。

のではないかと思える所があります。市内では、古代から玉川や諸沢の火打石山のメノウ採集が行なわれており、『新編常陸国誌』にも、メノウを産出する地として「那賀」と記されています。

メノウは石英という鉱物と同じ成分で構成されています。この石英の鉱脈の中に金が入っていることがあり、金を採掘する目的でこの石英の鉱脈を掘ったのではないかと考えられます。山の各所に散乱しているメノウはその過程で出たものとも考えられます。観音洞窟もそうした中世以来の採掘坑を利用してつくられたものかもしれません。
*採掘坑をご覧になる際は、足元に十分ご注意ください。

百観音は那賀地区(旧緒川村)の川向男体山の中腹にあります。現在は山頂まで登山道が整備されており、森林浴を楽しみながら見学することができます。

◇百観音のいわれ

『緒川村史』によれば、この百観音は文化六(一八〇九年)、那賀在住の小森清蔵という盲目の人が、地域の有志から寄附を募り、諸国の有名な観音像を彫ったものであるといわれています。中腹に「観音洞窟」があり、この中に約四十体の観音像が安置されています。高さ一五〇センチメートルほどの洞窟内部は夏でもひんやりとした冷気に満ちています。

◇もうひとつのめぐり

山中には鬱蒼と緑が生い茂っていますが、よくみると凝灰岩の岩肌が所々露出しています。岩肌には人の手によって開けられた採掘坑(地中の鉱物を採るために土や岩石に掘った穴)のような穴が多数みられます。頂上付近にも垂直に掘られた採掘坑を見ることができ、これらは無数の穴は、火打石となるメノウを掘ったものとも、佐竹氏が金を採掘するために掘ったものともいわれています。今でも、頂上付近にメノウの破片が散乱していたり、中腹にメノウ塊の集積するところがあったりと、昔からメノウを産出していた



▲採掘坑のある岩盤。川向男体山には各所にこのような岩をみることができます。

数字から 明日の日本を 夢デザイン

2005

国勢調査

平成17年10月1日(土)

9月下旬から調査員がおうかがいいたします。



ご協力をお願いします。

総務部情報政策課

今年の10月1日現在で、全国いっせいに平成17年国勢調査を実施します。

国勢調査は、日本に住んでいるすべての人を対象として行う大規模な統計調査で、大正9年から5年ごとに行われており、今回は18回目にあたります。

我が国の人口・世帯の実態を明らかにし、国や都道府県・市区町村の行政の基礎資料として、少子高齢社会への取り組みや皆さんのまちづくりにいかされます。